



教育センターニュース

四日市市教育委員会 教育支援課
〒510-0085 四日市市諏訪町 2-2 (四日市市総合会館6階)
TEL 354-8283 (代) FAX 359-0280

ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>

教育支援課
マスコットキャラクター
しえん君



人間力につながる教育実践を

教育監 吉田 隆

最近「リオオリンピック」や5年後の「東京オリンピック」に向けて、各種競技で中高生をはじめとする多くの若手選手が、世界の強豪を相手に活躍しています。本人の恵まれた才能に加え、その才能に磨きをかけるため、日々弛まぬ努力をする姿は本当に素晴らしい。明日への希望を感じさせてくれます。

さらに、インタビューでのしつかりとした受け答えができており、特に目標を見据えた高い意識を持っていて、自己分析ができて、ことに気づきます。単に技術力があるだけでなく、総合的な「人間力」が備わっていることに感心させられます。

さて、教育基本法第一条には、教育の目的として「人格の完成」「平和的な国家及び社会の形成者として、心身ともに健康な国民

の育成」が掲げられています。私たち教職員はこのことを常に念頭に置きながら、日々の教育活動を進めていかなければなりません。その中で、「知徳体」のバランスに留意しながら、子どもたちの才能をいかに伸ばしていくかが問われており、その達成に向けての工夫は教育者としての醍醐味ではないでしょうか。

現在、四日市市では幼保小中学校が連携した教育「学びの一体化」を実施しています。これは、就学前の遊びを通じた教育から、時間割に基づいた学習活動、集団活動の中で学ぶ他者とのコミュニケーションや達成感、TPOに応じた言葉遣いや行動など、子どもたちの将来の自己実現に向けて、縦のつながりを意識した取組により、発達段階に応じたキャリア教育を実践しているものです。

ある教育学者は、「学び続ける限り、子どもは決して崩れない」と述べていますが、この言葉は学力に限ったものではないと思います。世界に挑み続ける若手選手や社会人として活躍する教え子たちの姿を見ると、総合的な「人間力」につながる教育実践が重要であり、学んだことを発表できる場や体験的な活動を意図的に設定する必要があると考えます。



やっていますか？OJT

研修で学んだことを自分の実践や授業に活かすだけでなく、周りの先生方にどんどん伝えてみませんか。伝えることが、若手教員はもちろん、ミドルリーダーやベテランの方にとってもスキルアップになります。今回は、内部中学校で行われている「ホット研修」と呼ばれている学びの場を紹介します。

主体的な学びの場を創る！内部中学校発「ホット研修」

ねらい：教師の授業力向上，生徒・保護者等とのコミュニケーション力向上

内容：テーマはいろいろ（家庭訪問，進路指導，理科や社会の授業指導等々）

方法：教科・教科外の研修に各一回以上参加する。管理職も参加する。

出入り自由。（途中退席・途中参加もOK。）1時間程度で。

多方面に講師依頼。（教職員，外部からも…教育アドバイザー，専門学校講師等々）不定期開催。研修委員長が朝の打ち合わせ等で参加を募る。

ある日の「ホット研修」メニュー

テーマ：家庭訪問での対応について

教頭先生から家庭訪問の目的についての話

担任経験の少ない教員の不安や疑問について

スクールカウンセラーからのアドバイス

家庭訪問場面をロールプレイ

教頭先生からアドバイス



人数が少なく，気軽な雰囲気なので，全体の場では聞けないことも聞きやすく，具体的なアドバイスが受けられるのでわかりやすいです。



若手教員の悩みや疑問によりそうことで自分の実践を振り返るよいきっかけになっています。また他の先生の考えも知ることができ，よい刺激になります！

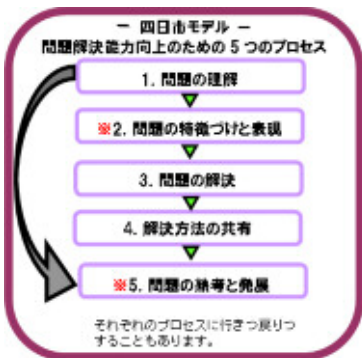


研修活性化の鍵はOJTにあり！

夏季研修会など様々な研修での学びを，OJTでそれぞれの学校に広めましょう。

問題解決能力を育むために

ガイドブックを活用した授業づくりを進めよう！



「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック」は、授業や様々な教育活動の中で「5つのプロセス」に基づき、適切な指導をすることで、子どもたちは思考力・判断力・表現力を習得し、問題解決能力の向上に結びつくと示しています。

本ガイドブックを活用し、子どもたちがこれまでに身につけた知識・技能や収集した情報、体験等を活かすことのできる授業づくりを推進し、問題解決能力を育みましょう。

「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック」活用推進協力校の取り組み

今年度は活用推進協力校とし、中部西小学校、海蔵小学校、常磐小学校、大谷台小学校、常磐中学校の5校が「5つのプロセス」に基づく授業づくりの研究に取り組んでいます。

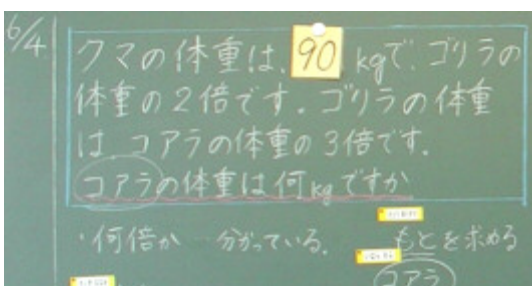
研究成果は夏季教職員研修会にて発表し、実践事例を「指導実践事例集（仮称）」として、市内各校に配付する等、報告をしていきます。1学期に行われた2校の研究の様子を紹介します。

研究主題 確かな学力を育成する授業

一緒に学びながら思考過程を表現する 授業づくりー(常磐小学校)

今年度は第2プロセス及び、第3・4プロセスに主眼を置き、書くことを中心とした「思考過程を表現する」授業を具現化し、「確かな学力を育成する授業」の検証を進めています。

6月4日全体研修会（第4学年「わり算のしかたを考えよう」）では、問題の数値は示さずに提示するといった、第2プロセスを意識した提案がありました。「もし、こんな数値だったら答えは出せるよ」と問題構造に目を向け、見通しを立てる子どもの姿が見られました。



研究主題 表現し、みがきあう子 ー話し合いのある授業の創造ー(中部西小学校)

昨年度に続き、自分の考えや思いを伝える「話し合い」活動を重視するとともに、問題解決能力向上のプロセスを意識した授業づくりを研究しています。

8月3日全体研修会には早稲田大学 小林宏巳教授を講師として招聘し、研修を行いました。教授からは、「問題解決学習をもう一度子どもたちの手に」という演題で指導を受け、2学期から活かせる問題解決能力向上のための授業づくりを学びました。次回全体研修会は10/26(月)国語、11/2(月)算数です。ぜひ、ご参加ください。

※公開授業研究会のお知らせ	11月14日(土)	三重北小学校「仲間とともに主体的に学び合う子どもの育成」
	11月20日(金)	大谷台小学校「理論的思考力の育成」
	11月21日(土)	河原田小学校「子どもたちが学び合える授業」
	11月21日(土)	浜田小学校「共に学び合う授業の創造」

不登校予防の最重点は「魅力のある学校づくり」です

不登校になる理由は様々ですが、「学校が嫌い」「学校が辛い」ことに起因しています。子どもたちの「楽しい」「安心できる」等の感覚が、登校への大きな力となります。



子どもにとっての「通いやすい・心地いい」学校とは…？

困難な時に、気持ちやストレスを理解し、対処方法を共に考えてくれる場所
自分にとっての困難を乗り越えた時に、共感し認めてくれる場所



YESnet「出前」授業・・・YESnetのスタッフが学校に出向き、メンタルヘルス授業(ストレスについて・解消法について等)を行います。申し込みは、教育支援課(担当:長谷)までお願いします。



「学校が楽しくなくなる」主なきっかけ

学習

- ・「わからない」
- ・頑張っても結果が伴わない

友だち関係

- ・いじめられる
- ・うまく付き合えない

先生との関係

- ・よく叱られる
- ・意思の疎通ができない

早期からの 学習支援

- ・課題の調整等、授業の中の合理的配慮
- ・学習習慣の確立



ソーシャルスキル トレーニングの活用

- ・声のかけ方、自分の気持ちの伝え方等
- ・トラブル解決策の考え方
- ・言葉で表現する力



チーム学校・学年 としての対応

- ・SC, 養護教諭, 管理職等との役割分担
(担任のみで対応しない)



不登校予防は、先生にしかできない支援です



先生は、学校生活をおくる子どもにとって、非常に大きな存在です。そのため、先生の強い思いや取り組みが、「困難な壁」と感じられてしまうと、子どもにとって必要な支援でも、逆効果になることもあります。

子どもの思いに寄り添った支援を行いましょ。



【参考】「登校を促す
早期アプローチ」
H26 四日市市教育委員会